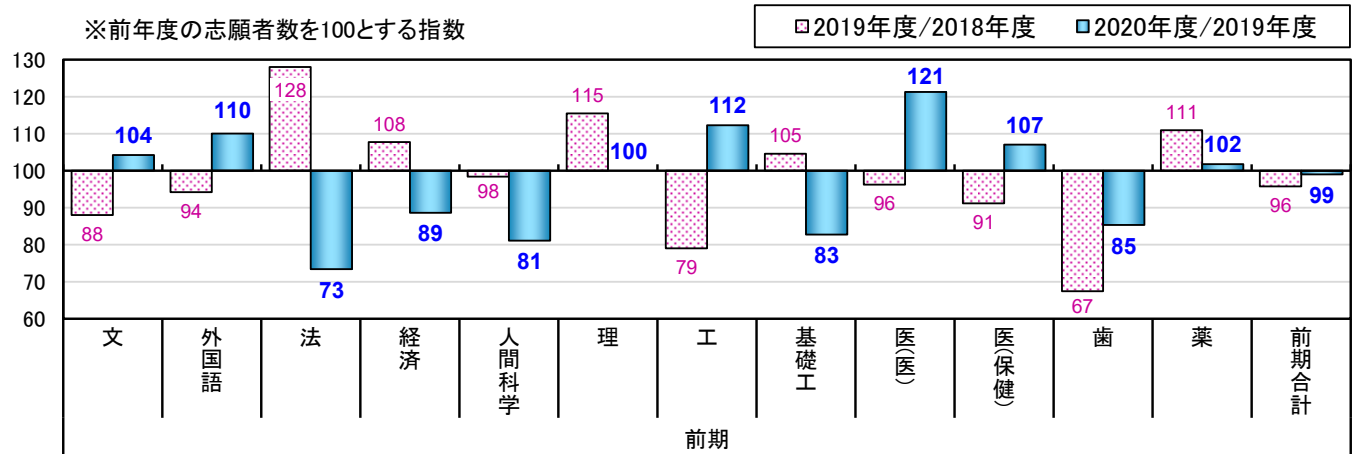


2020 年度入試状況分析【国公立大】

大阪大：前期合計では微減だが2年連続減少、医(医)、工、外国語は増加 前期：-74人



入試変更点 選抜方法：医(医)<前>…個別配点 数<200>+理 2<200>+外<200>=総点<600>
→数<500>+理 2<500>+外<500>+面=総点<1,500>
第1段階選抜基準：医(医)<前>
…センター試験の成績が総配点 900 点中 720 点以上の者のうちから募集人員の約 2.6 倍までの者
→センター試験の成績が総配点 900 点中 630 点以上の者のうちから募集人員の約 3 倍までの者

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 74 人(99)の微減だが2年連続減少。増減が目立った学部は、医(医)(121)が大幅増加、工(112)、外国語(110)は増加。一方で、法(73)、人間科学(81)、基礎工(83)、歯(85)は大幅減少、経済(89)は減少。工と基礎工はセンター試験における数学の配点比率が、工は 14%、基礎工 25%なので、平均点ダウンが目立った数学を失敗した受験生が工に流入したことで、対照的な増減となった。

- <前期日程>
- 文(104)は、前年度減少の反動で増加だが増加率は小さい。
 - 外国語(110)は、前年度やや減少の反動で増加。専攻別では、(外国語/インドネシア語)(191)、(外国語/英語)(153)、(外国語/アラビア語)(132)、(外国語/フィリピン語)(131)、(外国語/朝鮮語)(131)、(外国語/ビルマ語)(131)、(外国語/スワヒリ語)(131)が 30%以上の増加率だった。一方で、(外国語/ポルトガル語)(77)、(外国語/タイ語)(83)、(外国語/デンマーク語)(83)が 15%以上の減少率だった。
 - 法(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。(法)(73)、(国際公共政策)(74)の2学科とも大幅減少で、志願倍率は2学科ともに2倍を下回った。
 - 経済(89)は、6年連続増加の反動と系統への人気の陰りから7年ぶりに減少。
 - 人間科学(81)は、大幅減少で2年連続減少。志願者数が253人に留まり、募集人員が115人になった2017年度以降では最も少なくなった。
 - 理(100)は、前年度大幅増加の反動はなく、前年度と同人数だった。学科・コース別では、(数学)(135)が大幅増加、一方で前年度大幅増加の反動で(生物/生命理)(54)、(生物/生物科学)(62)が大幅減少。
 - 工(112)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、全ての学科が増加したが、系統への人気が高い(電子情報工)(125)が大幅増加、応用自然科学(115)も大幅増加、応用理工(110)が増加とこの3学科の増加が目立った。
 - 基礎工(83)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、系統への人気が高い(情報)(99)は前年度並だが、他の3学科はいずれも大幅減少。
 - 医(医)(121)は、2年連続で志願倍率2.4倍と低倍率だったことと、個別試験重視に配点変更したことで、個別試験での逆転を狙う層の流入で、大幅増加。
 - 医(保健)(107)は、2年連続減少の反動でやや増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(135)は大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。(保健/放射線技術科学)(101)は前年度並、(保健/看護)(94)はやや減少。
 - 歯(85)は、2年連続大幅減少。
 - 薬(102)は、微増だが3年連続増加。系統人気が低い中での増加要因として、京都大が6年制の(薬)の学科振分け後の定員が15人のため、6年制の(薬)のみで募集人員65人の大阪大が、薬剤師志望の成績上位層から狙われていることがある。